

## 平成27年度 第2回 学校協議会報告

平成27年11月27日 開催

出席者 協議委員 和田 嶋田 江田 岩本 (敬称略)  
本校職員 校長 教頭 梅本 高橋 上田 橋田 金城

### コース制導入に関して

再編整備事業で、H29年度より普通科総合選択制からコース制に移行することが決定した。現在専門コースの設定や新しいカリキュラム作成に向けて検討中である。

中学校はコース制に変わること、高校のコンセプトや体制が変わるのかとか、選択科目が減ることで教員定数は減るのか、またそれによって指導体制に影響は出ないのかなど不安を感じているが、必修科目中心のいわゆる普通科に、普通科総合選択制で培ってきたノウハウを専門コースに活かしたマイナーチェンジで、基本コンセプトは変わることはないし、学校の体制が劇的に変わるものではない。教員定数も減少は否めないが、指導体制には影響を出さない。

### 学校教育自己診断について

今回は初任者3名がプレゼンテーションをおこなった

「学校が楽しい」の肯定感が非常に多く、年々伸びてきている。また「生徒指導がしっかりしている」の肯定感が圧倒的に多い一方で、「生徒指導に納得」の肯定感が減った。アンケートを実施した時期に女子のスカート丈を長くする取り組みや遅刻の罰則強化を始めていたので、不満を持ったのかもしれない。しかし、多少の不満はあっても、学校を居心地がいいと思い、生徒指導に期待を持っている側面がうかがえる。さらに、対話を大事にしていることが「耳を傾けてくれる」「相談に乗ってくれる」の肯定感アップに繋がっているので、学校のコンセプトである「厳しさの中にも温かさを持った生徒指導」が成果として表れていることがわかる。

「いじめやもめ事を見逃さない」については「わからない」が大きな割合を占めるが、そういう場面・事象に遭遇していないことの表れであると考えられる。「わからない」が多くならないような質問事項を考える必要がある。

学校の良いところの第1位が「自転車を通える」であった。生徒の実に素直な感想であるが、これは単に近いからというだけではなく地元の学校への愛着、地元意識の表れであると考えられる。そして、第2位が「生徒指導がしっかりしている」で、生徒はきっちりした生徒指導に期待をしているのである。だからこそそういう生徒を大事に育てていかなければならない。中学校は、入試制度がころころ変わりその対応にあくせくしている中で、地元と密着して生徒を大事にして育ててくれる高校の存在は非常にありがたいと考えている。